

イベントのお知らせ



【問い合わせ】七ヶ宿町観光協会
TEL 0224-37-2177
FAX 0224-37-2468
http://www.town.shichikashuku.miyagi.jp/

8月22日(日)

集合場所 七ヶ宿町開発センター前広場
(七ヶ宿町役場前)
集合時間 午前7時40分〜午前8時半

七ヶ宿スキー場から関宿までの約十一キロを歩きます。旅装コンテストやお楽しみ抽選会も実施します。

第二十五回 わらじで歩く七ヶ宿

七ヶ宿火まつり

「わらじで歩く七ヶ宿前夜祭の火まつり」山伏問答や大護摩供養を行いながら翌日のイベントの安全を祈願します。最後に七ヶ宿の夜空に華が咲く花火大会も必見です。是非前夜祭からお楽しみください。

場所 七ヶ宿ダム自然休養公園
時間 午後6時半〜午後8時

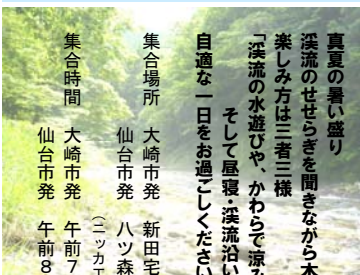
写真 みやぎ街道交流会

8月21日(土)

わらじで歩く七ヶ宿前夜祭

8月21日(土)

奥新川溪流沿いトレッキング



真夏の暑い盛り
深流のせせらぎを聞きながら木立の中を歩きます。
楽しみ方は三者三様
「深流の水遊びや、かわらで涼み三昧」
そして風覆「深流沿いトレッキング」
そして風覆「深流沿いトレッキング」
そして風覆「深流沿いトレッキング」
そして風覆「深流沿いトレッキング」

写真 新田 潤 氏

【問い合わせ】幹事 新田 潤
FAX 020-4624-2191
E-mail civi1_e@live.jp

10月2日(土)

夏と秋の年に2回開催される、恒例の敷石堀のイベントです。(今夏の様子は中面の報告レポートをご覧ください)

【問い合わせ】
NPO 法人ご堀れ和ん話ん探検隊内
萱野峠敷石堀れ堀れ探検隊事務局

第8回萱野峠敷石堀れ堀れ探検隊
山形県西置賜郡小国町

10月2日(土)~3日(日)

2年前の栗原大会以来待望のみやぎ街道交流会主催イベントです。栗原大会以降、地元の方々と共に栗原市の奥州街道の保存・活用に取り組んできました。今回もそんな新たな出会いを楽しみにin 加美に乞うご期待!!

【問い合わせ】みやぎ街道交流会事務局

みやぎ街道交流会
第2回交流大会
in 加美
宮城県加美郡加美町

10月29日(金)~30日(土)

昨年の青森大会に続き、今年は山形県西村山郡西川町で行われます。東北各地の街道関係団体が一同に会するこの機会をお見逃しなく!

【問い合わせ】とうほくの街道事務局

とうほく街道会議
第6回交流会
山形県西村山郡西川町

※10月以降のイベントの詳細は、みやぎ街道交流会事務局までお問い合わせください。

NEXT INFORMATION

編集後記・次号予告

交流会ニュース第14号はいかがだったでしょうか。今回は初の巻頭インタビューを掲載しました。「自転車道街道を巡る」ってちょっとおしゃれですね。巷では若い女の子がお洒落にアウトドアを楽しむ「山ガール」が流行中ですが、次はおしゃれ自転車に乗る「道ガール」がくるかも!?
巻頭インタビューでは紙面の関係上

街道サイクリングの魅力の一部しかお伝えすることができませんでした。街道関連イベントで畠山さんを見かけたら、是非自転車のお話をうかがってみてください。きっとあなたも自転車で街道に行きたくなりますよ!
さて、交流会ニュースではこれからも会員の皆さまの日ごろの活動や、街道の楽しみ方を紹介していきたいと思っています。面白い話題やためになるお話をご存知の方は是非事務局までご連絡ください。

次回交流会ニュースは11月下旬の発行を予定しています。紅葉満載のニュースをどうぞ楽しみに。
(ニュース編集担当・くり)

虫ササレにはご用心!
●ワンポイントアドバイス●
森林や溪流、自然に囲まれた街道歩きは夏の醍醐味ですが、そこにつきものなのはブヨや蚊などの虫ササレです。街道歩きへお出かけの際は長袖長ズボンなどの服装の工夫や、虫除けスプレー・かゆみ止めの準備をお忘れなく。



(撮影: 畠山信彦氏)

夏の街道ニュースを公開します。
みやぎ街道交流会ニュース

第14号 2010年8月11日発行

みやぎ街道交流会 正会員 畠山 信彦 氏

ニュース第14号では、みやぎ街道交流会正会員の畠山信彦さんに、自転車で巡る街道サイクリングの魅力について語っていただきました。

—まず、畠山さんが自転車で街道巡りを始められたきっかけを教えてください。

小さい頃から仙台市内の旧宿場町・原ノ町を自転車で通っていましたが、最近になってそこに古い道標があることに気がきました。道標の後ろには道標が建てられた年が記されていて、それがペリーが浦賀にやってきた年だったんですね。そこから歴史と道標がリンクしていることに気がついて、ちょうど3年くらい前から江戸の道標探しを始めたんです。自転車だと小さな道標もすぐ見つかるんです。

—今までにどのくらいの道標を見つけれましたか?
宮城県内で20箇所です。明治や大正時代のものも含めるとたくさんあるのですが、私は江戸時代に絞って探しています。—なるほど。自分なりのルールを作るとおもしろさも増しますよね。その道標探しに街道巡りへつなげたきっかけはどういうものだったんでしょう?

江戸時代の道標を見つけてはそれを自分のブログで紹介していたんです。そのブログを通して渋谷さん(ふくしまけん街道交流会)と知り合いました。渋谷さんから街道関係団体のことや街道イベントのことを紹介いただき、先日初めて七ヶ宿のイベント(羽州街道交流会七ヶ宿大会)にも参加してきました。—ブログで交流がひろがったんですね。畠山さんにとって街道をたどる楽しみを教えてください。

私は高倉先生の著書を参考に街道巡りをしています。先生の本に沿って街道をたどると、ちゃんとそこには道標もありますし、小さなお地蔵さんやお寺、歴史をイメージするポイントが見つかるんです。街道を歩くと、はるか昔に、仙台北下からいくつもの峠を越えて歩いてきた昔の人と気持ちシンクロするような気がします。そんな気分を味わえるのが楽しいですね。

—まさに街道歩きの醍醐味ですね。ではその街道を自転車で巡ることのこだわりはどのようなところですか?

自転車の良さは距離感が実感できることだと思います。よく、ある場所からある場所までどのくらい離れているかを説明するときに、車は「何分くらい」と時間で説明しますよね。自転車だと「何kmくらい」と距離で説明します。自転車は自分の力で進むものなので距離が重要な基準になるんですね。—確かに昔の人も移動の基本は人力でもなんでも。そういう部分でも自転車は良いツールですね。

—そうなんです。伊達政宗も仙台北下から互理や白石などだいたい40~50km間隔で町場を配置しているんです。この間隔は自転車で走ったときにちょうど良いと実感できるんです。—では、今まで自転車で走って印象に残っている街道やお勧めポイントがあったら教えてください。

ふとしたところに昔の面影が見え隠れするところを発見するのが好きですね。例えば奥州街道(一関~栗原~仙台)や浜街道(互理~南相馬)は、区間全体としては昔の面影が少ないんですが、ふとしたところで歴史を感じることができます。また昔の雰囲気がよく残っていて印象深いところでは、松島~石巻市(石巻街道)の間の高城の町を過ぎた旧道ですね。あとは松島の野々島も歴史的なポイントがたくさんあってお勧めですよ。特に椿のトンネルがお勧めです。

—自分の力でどこからこそ、素敵な風景に出会ったときの感動もひとしおですね!これから街道を自転車で走ってみたいという方へアドバイスなどあればお願いします。

仙台市内でも十分楽しめますので、まずは青葉城址を基点に街道筋を走ってみてください。南は長町、北は七北田、東は原ノ町というように宿場を目指して足を伸ばしてみると、歴史ポイントが見つかって面白いと思います。

—「気軽にペダルをこぎながら、道端に目を向けてみる」自転車はそんな手軽さが良いですね。では、畠山さんご自身が次に走りたいと思っている場所を教えてください。

羽州街道を桑折宿~小坂峠~七ヶ宿~米沢~松原湖~猪苗代湖まで、1~2泊くらいで走ってみたいと思っています。それから、これはもう少し先の話ですが、いつかは奥州街道を日本橋~仙台まで走ってみたいと思っています。—そのときは交流会ニュースで是非レポートさせてください!最後になりましたが、ニュースを読んでいた会員の皆様へメッセージをお願いします。

5月の羽州街道交流会七ヶ宿大会では、初めて参加したにも関わらず大変楽しませていただきました。またいろいろな方々とお話をさせていただき、高倉先生をはじめ街道関係団体のみなさまの「現場主義」には大変感動いたしました。私もひきつづき自転車での街道巡りを通じて、現場主義でがんばっていきたく思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



奥州街道・有壁本陣(宮城県栗原市)

第6回 羽州街道交流会・七ヶ宿大会

5月22日(土)～23日(日)／宮城県七ヶ宿町

基調講演 羽州街道と地域づくり —歴史的資源を活かした宿場町活性化を考える— 山形大学文学部地域連携担当 村松 真 氏

今回は七ヶ宿の将来の展望を、宿場町として年間110万人の観光客を呼んでいる大内宿（福島県南会津郡下郷町）と、現在6戸10人の町となった網木宿（山形県米沢市網木）を比較し、将来七ヶ宿はどちらにもなる可能性があることを村松先生は述べられました。

シンポジウム「街道が地域づくりを変える」

シンポジウムでは羽州街道沿線の東北5県からまちづくりに携わっている方々をパネラーに迎え、これからの街道と地域での取り組みについて意見を述べ合いました。

街道は地域をつなげる良い材料
いろいろな地域で様々な活動が展開される中、街道というキーワードを使うことで、他の地域と容易に繋がることをパネラーの方は口々に話されました。（中略）今回のシンポジウムを聞いて、地域と地域を結ぶという点で街道は大きな可能性を持っていることを知りました。
何かをする時に「補助金ももらえるから大丈夫」ではなく「汗を流すこと」が大事
また、何かまちのためにしようとするなら、補助金ありきでものを考えない方がよいという意見もありました。『補助金があればやらぬ位の考えなら、初めからやらぬ方がよい、何よりも汗を流すことが大事だ』といった黒丸氏の意見には、まちへの強い思いを感じました。

大内宿は昭和42年に茅葺職人の取材で訪れた大学生により町並みの美しさを発見され、昭和56年には重要伝統的建築群保存地区に選定されています。大内宿は行政と住民との連携により歴史的な町並みの再生に取り組めた事例といえます。
一方で、網木宿は火災などにより伝統的の家屋が焼失し、残っていた家屋も維持管理が行われないために崩壊しています。また、町並みの保存が行政と住民の連携により行われておらず、住民も何から取り組めばいいのか途方に暮れている状況です。
現在七ヶ宿に必要なことは人材育成のしくみと、地域が一丸となれる目標を設定することであると述べ、そのためには行政との連携は不可欠であることを最後に強調しました。

- コーディネーター
村松 真 氏（山形大学 文学部地域連携担当）
パネラー
熊本 裕司 氏（福島県築折町 桑折町商工会青年部長）
和田 達 氏（宮城県七ヶ宿町 清津地域づくり委員会委員長）
井上 睦夫 氏（山形県上山市 NPO法人上山赤土づくり委員会委員長）
黒丸 剛 氏（秋田県美郷町 美郷町観光協会会長）
山田 里美 氏（青森県大鰐町 プロジェクトおおわに総務部長）

「顔の見える」物産交流は土地の人を幸せにできる
そして、山田氏の話の中に「顔の見える」物産交流という言葉がありました。『田舎の方に行くとい生その土地から離れない人もいて、他の地域の食べ物を知りたい人もいます。そんな人たちに今まで食べたことのないものを届けて、調理法を紹介したり、誰が作ったかを伝え、人を繋げることで、幸せを生み出すこともできる』と発言されていました。山田氏自身、食べることが好きなこともあり、「食」から繋げていくことへのこだわりと自信を感じました。



七ヶ宿大会・シンポジウムの様子

街道談義

地元のお母さん方が山菜料理を振舞ってくれました。地元で採れる山菜のほとんどが使用された十種類の料理が出され、一つ一つ料理の材料と作ったお母さんが紹介されました。料理の紹介があるだけよりも、作った人の顔が見えた方が一層おいしく感じました。
そして恒例となっている地酒自慢大会。いろいろな地域のお酒が並び、これだけ多く種類をいっぺんに味わったのは初めてでした。そして、全て自慢のお酒だけあっておいしいものばかりでした。
飲んで食べて話して、楽しい時間が味わえました。一次会が終わっても、旅館での二次会が夜中まで行われ大いに盛り上がりました。



料理を作ったお母さん方

歴史街道探訪会 ～羽州街道「金山峠と干蒲宿の旧街道をたどる」～ コース：山形県上山市櫛下赤山 - 金山宿 - 金山峠 - 鏡清水 - 七ヶ宿町干蒲宿

山形県上山市櫛下赤山（出発）
昨日遅くまで飲んでいたので開けず、皆さんしっかりと足取りでスタートしました。道の横には金山川（最上川支流）が流れていて、その横を金山峠に向かって登っていきます。
金山宿
この地名は徳川家光のころ日光東照宮に使用する金を採掘した金鉱跡があることに由来するそうです。間(あい)の宿(あしゆ)とあって泊めることにはできませんが、旅人の休憩所となった宿場だと言えます。金山宿を過ぎ、旧街道を進んでいくとどんだん山深くっていきます。（中略）
七ヶ宿がり坂
峠を越える手前でこの七ヶ宿がり坂があります。本当に七回曲がるのか皆さん教えていました。難所といわれますが、他の峠の難所と比べるとまだ歩きやすいそうです。それでもやっぱりきついです。

鏡清水
山形県（阿武隈川支流）の源流の「鏡清水」です。古くは大名家の姫君が顔を映す鏡代わりにしたとか。こちらの川は太平洋まで流れていきます。
七ヶ宿町干蒲宿
峠を越えると到着地の干蒲宿が見えてきました。七ヶ宿ではおなじみの原風景が広がります。間の宿であった干蒲宿には、まだその名残が残っています。蔵も立派なものがあり、当時の面影を感じました。
お昼ごはん（山菜弁当と山菜汁）
歩き終った後、最後に参加者みんなでお昼ごはんを食べました。出していたのは山菜弁当と山菜汁です。



干蒲宿
七ヶ宿ではおなじみの原風景がひろがる

普通に歩くとも1時間ちょっとの道のりらしいのですが、今回は解説も含めてゆっくり峠越えをしました。かかった時間は3時間でしたが、峠道の雰囲気十分に感じることのできる体験でした。
今回初めて本物の峠道を自分の足で越えました。難所といわれる程のものではないにもかかわらず、私にとっては十分に大変な道でした。当時はこれに物を担いで越えることもあったと思うので、その大変さを身をもって体験できた良い機会でした。（団体会員・井上）

第7回萱野峠・敷石掘れ惚れ探検隊

7月17日(土)～18日(日)／山形県西置賜郡小国町

恒例となった敷石掘り今年も山形県西置賜郡小国町で開催されました。



みんな夢になります（木工クラフト）
バンガローにて街道談義の準備中

3年目を迎える「敷石掘れ惚れ探検隊」のイベントですが、萱野峠を頂上まで歩くと、これまでにイベントを通じて復元された敷石道を歩くことができます。敷石道の傍らにはこれまでに掘り起こしに参加した方々の名前が記された木のプレートが立っていて、知っている方々の名前もチラホラ。その時々メンバーが汗を流して敷石を掘っている姿が目につきます。
今回復元された敷石道は約20mで、合計約700mの敷石道がなくなりました。現在敷石の埋まっている区間はルートが予想しにくく、発掘作業は年々困難を増しているそうです。敷石掘希望の方は、急ぎ次回10月の開催に参加されることをお勧めします！
午前中の敷石掘の後は、地元の方の企画による「木工クラフト」や「森林セラピー」の催しが用意されていました。

調査・研究活動の紹介

奥州街道 不通区間調査

一関市真栗(鬼死骸)地区/H22. 5. 8

栗原市内の旧街道の中で、敷に埋もれて迂回を余儀なくされている区間600mについて、今回、岩手県及び宮城県の8活動団体・13名が調査を行いました。その結果、今年11月20日の敷の刈り払い実施を決定しました。



上街道調査会(その1)/H22. 7. 11

上街道全線を可能な限り徒歩や車で巡ることを目的とした上街道調査会がくりはら街道会議主催で開催されました。1回目の今回は、一関市台町の追分碑から金成赤見塚ノ原の市道までの約11kmを調査しました。



その他の話題

みやぎ街道交流会 平成22年度定期総会・記念講演会

日時 5月22日(土)10:00～

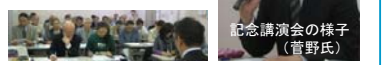
会場 仙台市青葉区みやぎNPOプラザ

H21年度の事業報告並びに決算報告、続いてH22年度の事業計画並びに予算計画について事務局より説明があり、原案の通り可決されました。また、新幹事・新田潤氏の追加選任が承認されたほか、白鳥良一氏の顧問就任が報告されました。

記念講演会「伊達政宗が街道整備と街道」

講師：菅野 正道 氏(仙台市博物館市史編さん室長)

「仙台北下」や「奥州街道」が整備される以前の仙台北の成り立ち、そして伊達政宗による城下町の整備やそれに伴う街道整備について講演をいただきました。



記念講演会の様子(菅野氏)

活動報告

ACTIVITY
10.05—10.07

5月から7月にかけて初夏の街道シーズン到来です！各地で開催されたイベントへ事務局メンバーが参加してまいりました。その様子をレポートでお楽しみください。

二井宿峠古道ハイク

5月8日(土)～9日(日)／宮城県栗田郡七ヶ宿町

リポーターの多い楽しいハイク
恒例の古道ハイク。いつも天気が悪いと評判でしたが、今回はばっちり快晴。公称50名の定員は、約100名参加にふくらんでおり、顔なじみも沢山参加している、大変人気の街道イベントです。
新緑の中、政宗、松蔭、御城米、高野長英などが通った歴史の道、古道に自生するシーボルト由来の植物などを楽しみながら進みました。昼は心づくしのおもてなしで、100%蕎麦、山菜汁、山菜料理に舌鼓を打ちました。最後は特製手作りタンポポコーヒーを飲みながら、各地からの参加者が感想を発表し合い、和気あいあいと盛り上がりました。リポーターの多さが領ける楽しいハイクです。（横山）

世界各地温泉と千年クローブを訪ねる羽後岐街道探訪会

6月26日(土)／宮城県栗原市

知る人ぞ知る、黒檜の巨木を目指して
当街道交流会新幹事の新田潤さん（古川どっぼ山の会幹事）が中心になり企画されたもので、当日の飛び入りを含み15名（会員5名）が参加しました。心配された天気も良好で、新緑の羽後岐街道、黒檜の巨木の千年クローブ、ニッコウキスゲの咲き誇る世界谷地温泉の探訪を堪能しました。

この企画は、平成20年6月28日に発生したあまの地震により中止された探訪会でした。ハインズレー栗駒（久瀬氏）のご厚意で、温泉料金割引あり、さっぱりと汗を流せました。案内板等も無いので、個人では行きにくく、このようなイベントは大変貴重でした。（横山）



第11回ふくしまけん街道交流会 in 白河街道・大開道

6月5日(土)～6日(日)／福島県若潮郡天栄村

街道講演会 天栄村・湯本集会所
天栄村『湯本集会所』において、須賀川市教育委員会の市川氏の講演を聴講しました。街道の解釈（場所と場所を結ぶ「みち」）や翌日探訪する戦国時代、豊臣秀吉の会津下向に際し、三間道として伊達政宗が改修した古道（勢至堂峠）の歴史などについて説明を受けました。講演会後は、集落内の散策をしつつ街道談義会場（岩瀬湯元温泉『分家』）へ移動しました。

街道探訪会 白河街道・勢至堂を歩く

国道294号の勢至堂トンネル（郡山側）出口脇の階段を上り、しばらく山道をすすむと茶屋跡、水たまりなどの名残が見られます。峠には「是より西 会津領」の藩境碑や、会津戦争のとき西軍が会津津波を攻めるために通り、そのときの攻防を語る「土塁の跡」も現存していました。幅三間の（約5.4m）の立派な街道は郡山側は屈曲しており、須賀川側は緩やかな道筋となっています。殿様清水脇を通り、国道でバスに乗り換え次の目的地の勢至堂集落へ移動しました。古い建物は現存していないものの、街道の名残は感じられる町並みです。集落外れに對の状態が比較的良好に保存されている「勢至堂一里塚」（S43長沼町史跡に指定）に歩いて向かいます。その後、長沼焼石の窯に寄り道をしつつ、秀吉が宿泊した長沼城跡で弁当をひろげました。昼食後は近くの水泉寺にて歴史的価値の高い「狩野安信」作の画「達磨図」を鑑賞しここで解散となりました。
天候にも恵まれ、盛りだくさんの地域の歴史が感じられる、すばらしい交流会でした。（沼田／横山）

